

空き家 × 自治会

実在する、ある地方都市の自治会内に点在する空き家の活用案。

至近には田畑と住戸が広がり川が流れ、駅からは徒歩15分。約30坪／世帯の170世帯からなる、完成より44年を経た開発団地。

かつては、ハザードマップで指定された水害地域であり、65歳以上の高齢化率、45%以上。地域の結束はあるが、気力体力には限界あり。

そんな自治会の中に徐々に姿を現してきた「空き家」群。



身体が不自由になり、病院通いから入院生活となった。

若い頃にこの地域に移住してきたが、子育てを終え、夫婦だけとなったので結局、二人で施設に移ることにしました。

近くに新興住宅地ができたので、そちらに引っ越しします。

身の丈スケールの実施案。

今できることは、わずかかもしれません。

でも、できることから始めることは、

どこか寂しそうに「その時」を待ち続ける「空き家」にとっても嬉しいことではないでしょうか。今あるモノを大切にすること。活用していくこと。

少しの「空き家」への実践が、まちの雰囲気を変えることを願って。



1. 学生限定格安シェアハウス (ガクセイゲンテイカクヤスシェアハウス)

自治会に点在する「空き家」を期間限定(1~5年まで交渉で設定)で格安賃貸する。

その賃料、毎月2~3万円程度。空き家状況を把握している自治会が主体となって、不動産業者、所有者等との橋渡し役となり、条件を取り決め、住居可能な状況を提供していく。

入居学生は構造体に関わらない範囲で、自由に内装等を変更可能とし、入居日までは自治会有志の協力の下、整備を行う。募集はネット等で広く情報提供し、国内外を問わない「学生」対象シェアハウスとした。応募者定数越えの場合、オークション形式で自治会内総合評価基準による入居者決定とし、当人は在学期間中、ハウスマイトと住みながら、地域の自治会活動にも、参加していく。それはあたかも地域レベルでの「下宿舎」のように。住み始めた学生は、自治会内で一定の役職を持ち、自治会に対しての「外部からの目」として積極的に改善点等はコメントしてもらい、他方、学業の内容を地域の方々に話していくことで、相互の関係性を深めていく。学生が卒業する際は自治会主催で「シェアハウス卒業パーティー」を開催。

2. 自治カフェ (ジジカフェ)

自治会のジジたちが運営するカフェ。夏祭りでのアピールやチャリティーイベント等を通じて、住み手が居なくなった「空き家」の改修費用募金を集め、所有者との交渉を経て、完全なるセルフリフォームを試みたお手製カフェとなる。メニューにはお約束のババロアも提供。

住宅街のど真ん中でJAZZYな音が流れてくる。

3. 駄菓子菓子 (ダガシカシ)

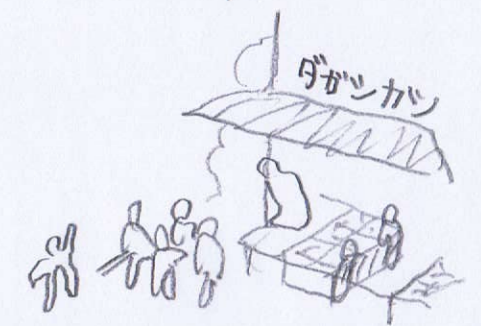
昔の懐かしい風景にあったかもしれない。小学校近くにドキドキ、ワクワクする様なお店。決して美しくはないけれど、10円や50円を握りしめて向かった先。「空き家」の1階を店舗スペースとした「駄菓子屋」さん。地域に「こども」はいなくとも、菓子を求めて、どこからともなく集まってくるこどもたちの笑顔や笑い声が「空き家」に響きます。

4. 100円SHOP 831 (ヒャクエンショップヤサイ)

“土いじり”という言い方からは想像もつかない程、素晴らしい大地の恵みを収穫してくる方々が自治会には結構いる。自分たちが食べる量はわずかなので、「空き家」を利用して、野菜の直販所を始めた。価格は全て100円。気軽に身近に、新鮮な味を提供。

5. 自習学習館

生涯を通して、何かを学び続けることは若さや生き甲斐につながる。時を静かに過ぎていた「空き家」が、自治会員のセルフリフォームによる「学びの館」となる。利用者は自治会内に限定せず、地域に開放。特に図書館や、公民館で一生懸命に自主勉強する学生達へのもう一つの選択としての「居場所」。ここでのルールはたった一つ、『私語厳禁』。学びに徹すべし。



- : 1 シェアハウス
- : 2 カフェ
- : 3 駄菓子屋
- : 4 直売所
- : 5 学習館

